

知床半島の高山帯における セイヨウオオマルハナバチの初記録

浅沼 孝夫

086-1751 北海道目梨郡羅臼町峯浜 524

First Record of Buff-field Bumblebee *Bombus terrestris* from Alpine Zone of Shiretoko Peninsula

ASANUMA Takao

Minehama 524, Rausu, Hokkaido 086-1751, Japan. site@shiretoko.org

知床半島におけるセイヨウオオマルハナバチ *Bombus terrestris* は、2000年7月に丹羽ら (2001) が斜里町ウトロのオロンコ岩付近で記録して以来、知床半島の海岸及び市街地を中心に水平方向に広がり、2008年9月には知床岬まで到達している (木下・市川2009)。

筆者は知床半島におけるセイヨウオオマルハナバチの拡散を把握するため、2000–12年に羅臼岳の登山道沿いに高山帯の2箇所をふくむ8箇所の観測地点を設けて訪花マルハナバチ相調査をおこなってきた (浅沼2013)。この調査期間中、2010年までは羅臼岳登山道の斜里町側ルート、羅臼町側ルート共にセイヨウオオマルハナバチは確認できなかった。ところが、2011年にこれら観測地点のうち2箇所ですセイヨウオオマルハナバチを初めて確認したので報告する。これらのうち1箇所は雪田群落での確認であり、これは知床半島の高山帯における初めての確認となる。

2011年6月1日、羅臼岳羅臼町側登山道の木かくれの滝付近 (標高180 m、海岸から直線距離3.8 km) において、エゾヤマザクラ (オオヤマザクラ) に訪花するセイヨウオオマルハナバチの創設女王を確認した。これは羅臼岳登山道における最初の記録である。

さらに、同年8月28日、羅臼岳羅臼町側登山道、

羅臼平直下にある風背斜面の雪田群落 (標高1,256 m、海岸からの直線距離8 km) において、アオノツガザクラを訪れるセイヨウオオマルハナバチの働きバチ (花粉ダング有) 1頭を確認した (図)。これは知床半島の高山帯における最初の記録である。

2011年にこの雪田群落でおこなった訪花マルハナバチ相調査の結果を表に示す。7–9月におこなった4回の調査で6種のマルハナバチが観察され、セイヨウオオマルハナバチが観察されたのは観察種数が最も多かった8月28日のみである。なお、2011年は風背斜面の消雪が例年より遅かったため、本観察地点でのアオノツガザクラやエゾコザクラなどの開花は、例年より約1箇月遅れて7月中旬頃からであった。

羅臼岳の雪田群落で観察されたセイヨウオオマルハナバチの働きバチはどこからきたのだろうか。ハインリッチ (1979) は「採餌中の働きバチは時速11–20 kmで飛翔し、(中略) 必要になれば少なくとも5 kmは出かける」としている。海岸から羅臼岳の位置する知床半島中央部の稜線までは約8 kmであるため、低地で営巣しているセイヨウオオマルハナバチが稜線まで採餌に訪れている可能性もある。実際に筆者は、積雪期に知床半島の稜線を越えるマルハナバチ女王を観察している (知

表. 2011年に羅臼岳の雪田群落(標高1,256 m)で観察されたマルハナバチの種別頭数. 種は頭数の多い順に並べ、括弧内は1時間あたりの頭数を示す(小数点以下四捨五入). 断りがない場合、カーストは働きバチである.

観察時間	種および頭数(1時間あたりの頭数)
7月23日 2h	エゾヒメマルハナバチ25(13), アカマルハナバチ21(11), エゾオオマルハナバチ17(9), エゾナガマルハナバチ8(4), エゾコマルハナバチ6(3)
8月04日 1h	エゾヒメマルハナバチ13(13), エゾオオマルハナバチ9(9), エゾヒメマルハナバチ(雄)1(1), アカマルハナバチ1(1)
8月28日 1.5h	エゾオオマルハナバチ49(33), エゾヒメマルハナバチ36(24), エゾオオマルハナバチ(雄)9(6), エゾナガマルハナバチ2(1), エゾトラマルハナバチ1(1), セイヨウオオマルハナバチ1(1)
9月08日 2.5h	エゾオオマルハナバチ38(15), エゾヒメマルハナバチ24(10), エゾオオマルハナバチ(雄)13(5), エゾヒメマルハナバチ(雄)6(2)



図. 2011年8月28日に羅臼岳の雪田群落(標高1,256 m)で観察されたアオノツガザクラを訪花するセイヨウオオマルハナバチ *Bombus terrestris* の働きバチ.

床峠にて2006年5月9日にマルハナバチ sp. 女王バチ, 2008年5月1日にアカマルハナバチ女王バチを観察).

しかし, 海岸から知床半島の稜線までの8 kmの間には約1,000 mの標高差があり, 花の密集した雪田群落の「お花畑」とはいえ小型で軽い働きバチが何度も通うのは営巣集団として非効率であろう.

したがって, 雪田群落に通うセイヨウオオマルハナバチの働きバチは, 海岸や市街地よりもさらに標高の高い営巣地から採餌にきた可能性が高い. 大雪山では, 2006年に黒岳周辺において高山帯での営巣が確認されており(北海道新聞2006年8月27日朝刊第2社会面), 知床半島においても高山帯で営巣している可能性は十分にある. 今後も在来種を含めた継続的な観察が必要である.

謝辞

本稿をまとめるにあたり, 北網圏北見文化センターの柳谷卓彦学芸員には文献の紹介を頂いた. 知床博物館の内田暁友学芸員, 松田功学芸員には多くの助言を頂いた. 環境省羅臼自然保護官事務所の三宅悠介自然保護官, 後藤菜生子自然保護官補佐, 知床財団の石名坂豪氏には羅臼岳におけるセイヨウオオマルハナバチの過去の記録を照会して頂いた. また, 大雪と石狩の自然を守る会の寺島一男代表には大雪山におけるセイヨウオオマルハナバチの記録等を紹介して頂いた. ここに記して厚くお礼申し上げる.

引用文献

- 浅沼孝夫. 2013. 羅臼岳におけるマルハナバチの垂直分布および季節消長. 知床博物館研究報告 35: 31-38.
- 木下裕美子・市川初音. 2009. 知床国立公園及びその周辺部セイヨウオオマルハナバチ生息状況監視・防除体制構築業務報告書: 平成20年度国立公園等民間活用特定自然環境保全活動(グリーンワーカー)事業; 環境省請負事業. 25 pp. 知床財団, 斜里.
- 丹羽真一・渡辺修・渡辺展之. 2001. 海岸植物における花の形態と訪花昆虫タイプとの関係. 知床博物館研究報告 22: 21-28.
- ベルンド・ハインリッチ(著). 1979(井上民二監訳1991). マルハナバチの経済学. 291 pp. 文一総合出版, 東京.